

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500220
法人名	社会福祉法人ふたば会
事業所名	グループホームふたばの森
所在地	新居浜市船木3001番地3
自己評価作成日	平成28年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 6 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふたばの森は、南を眺めば、すぐ近くに昔のままの自然、北側には住宅地、学校、スーパーと「生活」する上では、とても恵まれた場所にあります。いろいろな世代のスタッフと利用者とともに「楽しく笑顔のある暮らし」をおくれるようにと支援しています。日々健康管理に留意し、栄養バランスに配慮した食事、水分補給、日常的な活動をさりげなく支援しています。そのためか事業開始から発熱される方もほとんどなくみなさんお元気に生活されています。事業所内で「生活」が完結することのないように積極的に外出するように取り組んでいます。また、最近ではさまざまな問い合わせや相談が多く、地域にGHふたばの存在が認められた様子です。事業所内のご利用者だけでなく認知症高齢者を支える一つの拠点として地域に貢献していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地の外れに立つ地域密着型高齢者複合施設の一部に建っており、高齢化が進む地区住民の期待を受け、地域に信頼され貢献できる事業所を目指している。職員は「利用者とともに、楽しく笑顔のある暮らし」を理念に掲げ、利用者のありのままを受け入れて笑顔を引き出すケアに努めている。スタッフルームには利用者の笑顔写真が100枚掲示されていて圧巻である。開設当初から勤務する職員が多く、利用者と家族のような関係を築いており最期までお世話をしたいという想いを持って、看取りにも積極的に取り組もうとしている。また、利用者手作りのお食事を楽しんでもらいたいと考え、毎日買い物をして各ユニットで調理をしている。充実した研修体制のもと、職員が熱意を持ってサービス向上に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームふたばの森

(ユニット名) どんぐり(1階)

記入者(管理者)

氏名 高橋 俊道

評価完了日 42521

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業開始時に職員全員でケアのあり方、実践すべきことを話し合い自分たちの言葉で事業理念、行動指針を作成した。事業所内に意識づけのために掲示し、一日一日の振り返りを行えるように職員全員が自己点検表を記入し実践できるように努めている。	
			(外部評価) 法人理念を受け、開設時に職員が話し合って作成した事業所独自の理念を大切に継続している。自分たちの言葉で実践しやすいようにと考え「利用者とともに、楽しく笑顔のある暮らし」という理念と具体化するための行動指針をスタッフルームやリビングに掲示すると共に、毎日確認して意識づけをしている。スタッフルームには100枚の笑顔写真が「笑顔百景」と題して飾られており、職員の励みともなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の店舗へ利用者とともに買い物に行ったり、地域行事及び環境整備等にも参加させて頂いている。今後は運営推進会議などから地域のニーズや事業所側の役割を見出し、もっと交流が拡大できるように努めていきたい。	
			(外部評価) 日常的に近所の公園に散歩に出かけたり、スーパーに買い物に行き、近所の人と顔見知りの関係になっている。近所の好意で借りている畑を耕し、収穫した野菜をお裾分けする間柄である。また、利用者は地区の夏祭りに参加したり、併設事業所に来る太鼓台を楽しみにしている。小中学生の職場体験の受け入れや、保育園に招かれ、園児との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 利用相談時や見学依頼時には、なるべく来客者の都合に合わせてるとともに、時間をかけてさまざまな相談や社会資源の活用及び具体的な支援方法についての相談対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動報告には利用状況や事故防止の取組、行事については映写スライドを活用し内容や日頃の利用者の生活や表情を報告している。情報交換はできているが、さらに参加者が話しやすく率直な意見交換ができたり、地域ニーズや事業所機能の役割を相互の確認できる会議にしていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議は、自治会長や民生委員、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、事業所の取組みをスライドを使って報告したり、利用者の状況やヒヤリハット・事故報告を行っている。意見交換では、地域の情報を得たり、避難訓練参加のお願い等をしている。開催時間が30分に限られており、管理者はもっとゆっくり意見交換ができる工夫をしたいと考えている。	現在開催している方式以外に、行事との組み合わせや決められたメンバー以外の多様な人々の参加を求めるなど、運営上の工夫をすることで、家族の参加を促したり、より多くの人々に事業所の理解を深め、意見交換ができる機会となるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 業務等で市役所へ行くときは、必ず担当者との意見交換に努め、法制度の動向や条例変更等の情報交換、サービス提供における助言等を頂いている。また、市介護支援専門員部会では、年1回保険者との意見交換会があり、毎年必ず参加に努めている。	
			(外部評価) 市職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を把握してもらっている。管理者は頻りに市役所を訪れ、気軽に相談や連絡が取れる関係を構築している。市介護支援専門員部会に出席して情報を共有したり、地域包括支援センターからの要請を受けて、地区の集会所で講演を行うなど、関係が深まっている。また、介護相談員が定期的に訪れ、第三者として気付いたことを助言してくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日常的に職員同士で話し合い「身体拘束をしないケアについての実践」について確認し合うように努めている。当然、玄関の常時開錠を含め身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止のため、今後も定期的に勉強会を開き、意識が劣化しないように取り組んでいきたいと考えている。	
			(外部評価) 利用者が自由な暮らしができるよう、拘束をしないケアを徹底している。建物はどこからでも自由に出入りができる構造になっており、利用者は自由に戸外に出ることができる。夜間外でトイレ用を足すことのないよう戸外に出る利用者には、携帯用感知装置等の活用により察知しトイレ誘導を行っている。門扉とユニット出入り口にセンサーを設置し、職員は15分毎に利用者の状況を把握して安全に留意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に外部研修への参加や内部研修を開催し、学ぶ機会をもうけ、虐待はもとより「不適切なケア」についての理解を深め発生防止に取り組んでいきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度を活用している利用者はいない。活用必要な利用者には備え、円滑に制度活用ができるようにシステム作りを行っていききたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 左記の状況時には、時間をかけて重要箇所を十分説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い理解・納得していただくように配慮している。確認や申し出がない利用者や家族にはよくいただく質問等を事業所側から提案・説明し理解・納得をはかっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、要望等は面会時などの来所時や電話連絡時に個別に確認するように努めている。今後、家族参加の行事及び家族会等を開催し気軽に意見交換ができる場を確保していきたいと考えている。  (外部評価) 家族面会時には挨拶や声かけをして状況を伝え、家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。来訪が難しい家族には、電話で状況を伝えて要望を聞いたり、毎月郵送する手紙に一言を添えるようにして家族との関係づくりに努めている。今ではメールやファクスでやり取りする家族も増えてきている。また、そうめん流しには家族が多く参加しており、今後も家族が参加しやすい行事を計画する予定である。	管理者は家族会の開催を検討しており、アンケートによる家族の意向調査を計画していたが、まだ実施に至っていない。調査を実施し、結果を協議して深めながら、職員と家族が協働して利用者の支援ができる関係が構築できることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会、リーダー会及び職員会を定期的を開催し、その中で提案された意見を可能な限り運用に反映できるように努めている。  (外部評価) 様々な年齢の職員が在籍し、日常的に意見や提案を出し合いながらチームケアに努めている。定期的にユニット会や職員会が開催され、職員はケアについての意見や運営に関する要望を出すことができる。管理者は、年1回の個人面談でストレスチェックを行い、職員の心理的サポートに努めている。職員研修は計画的に実施されており、研修環境を整えて個人の意欲向上を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は月に1回は事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にし、やりがいや働きやすい職場づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。○J Tの取組についても今後の課題と考えシステムづくりに取り組んでいきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種研修会や市介護支援専門員部会等で同業者との交流（相互評価事業）や勉強の機会をいただいている。今後、機会をみつけ他施設・他事業所との交流も検討していきたいと考えている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には、入居前に可能なかぎり複数職員で訪問し、本人の困っていること、不安なこと、要望等の確認を行っている。本人さんをよく理解することに努め、グループホーム入居という環境変化からくるダメージを少しでも軽減できるように職員の配慮事項や居室等環境づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なこと、要望を確認している。また、入居前に事業所へ事前見学にこられた際にも上記のような確認を行い円滑に入居できるような支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に「今一番困っていること」を確認するようにしている。事業所として対応可能なことについては遅滞なく対応を行い、対応困難な場合については他事業所等の活用情報の提供や紹介調整を行っている。今後も初期対応の支援が円滑にできるように情報収集とネットワークづくりに努めていきたいと考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者ができることは、なるべく自分できるように支援している。毎食の調理下準備や共用場所の清掃などできる範囲で実施されている。今後も利用者が主体的に生活できるような取組に努めていきたいと考えている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、日常の生活状況や行事参加時の状況などを毎月お手紙で伝えるなどして安心していただけるように努めている。また、来所された場合は利用者と家族がよりよい関係になるように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事や地方祭への参加など、これまでの生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。入居前の行きつけの散髪屋やパーマ屋、普通のお店等への外出支援も家族とともに入居前の暮らしの継続性に努めている。  (外部評価) 入居時に本人や家族から情報を収集、その後は日常会話の中から馴染みの人や場所の情報を聞いて共有している。自宅を見たい、馴染みの散髪屋に行きたいという個別の希望には、家族の協力も得ながら実現できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が生活の中で支え合えるように、相互配置の配慮やさりげない役割の依頼に努めている。また、利用者間で認知能力の差異による行動のズレがトラブル要因にならないように、状況に応じ職員が間に入り緩衝に努め支援している。利用者同士が楽しく生活できるように今後も個々の状態を把握できるように努めていきたい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 過去の退居家族とは、外出先でお会いすると挨拶程度での関係しかなく疎遠になってしまっているが、相談等があれば気軽の相談できるような関係性を継続していけるように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者個々に話を聞き、なるべく一人ひとりの引き出せるように努めている。意向の表出が困難な利用者においては、家族へ相談や生活歴から本人本位の視点で「言葉にできない思い」を模索している。  (外部評価) 職員は、利用者の希望や思いを聴き取り、叶えてあげたいと考えており、入居時に家族から利用者が喜ぶことは何かたずねている。また、努めて話しかけ、笑顔になることを見つけるようにしている。表現が困難な利用者は表情から推察するようにしているが、職員は感覚的に把握できるようになったと感じている。新しくなった暮を見たいという利用者につき添って車いすでお参りしたり、県外の動物園に行くなど、思いの実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前調査時に本人や家族からおおまかな生活歴の聞きとりを行うとともに、入居後は本人とのふだんの日常会話内や思い出話により過去の暮らしの様子やサービス利用状況の把握に努め、利用者個々の生活歴の色づけを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの暮らし方を見守り、観察して心身状況、生活、活動の3つの記録を活用して、暮らしぶりを状況を把握するとともに職員間の情報共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各ユニット会でのカンファレンスでは職員間で意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。今後は本人、家族等もカンファレンスに参加していただき取り組んでいきたいと考えている。	
			(外部評価) 利用者と家族の意向を確認し職員が話し合っって介護計画を作成している。生活健康管理日誌を見ると1週間の利用者の状況が一目で把握できるように工夫されており、管理者とユニットリーダーが毎週モニタリングを行っている。状態の変化がある場合はその都度、ない場合も半年から1年ごとに、現状にあったものになっているか見直している。可能な範囲で利用者と家族にも参加してもらって介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者ごとの生活状況について状態が把握しやすいように記録様式を工夫している。記録内容から職員間での情報共有が容易になり介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活を支えるということは、支援の枠組みを広げることと考えている。柔軟な支援や多機能化のためには事業所のみならず、運用についてのボランティアや事業所の協力者の発掘に努めていきたいと考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個別に活用可能なさまざまな地域資源を把握し本人が主体的に活用できるように支援して行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人の病状をよく把握している入居前のかかりつけ医への受診 を継続的に支援している。また、かかりつけ医からの情報交換 から医療的観察事項や介護上の注意点等の助言をいただいでい る。  (外部評価) 入居前のかかりつけ医を継続して受診しており、職員が付き 添って受診することが多い。週に2～3回併設施設の看護師が 定期的に訪れ、健康管理や職員の相談を行っている。看護師は 24時間オンコール体制をとっており、利用者のかかりつけ医 と連携して適正医療につなげている。精神科医の訪問診療があ り、利用者に喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 隣接の特別養護老人ホームから週3回程度、看護職員に来所し て頂き、利用者の健康状態の報告、相談、助言を頂き利用者ご とに適切な受診や看護を受けられよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した場合は、文書にてGHでの生活の状況や入院 までの経緯、入院時の配慮事項等を報告している。また、早期 に退院できるように主治医や病棟看護責任者と定期的に情報交換 を行っている。必要に応じてMSWとの情報交換を行い医療機 関との関係構築に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期ケアについては実践事例がまだない。今後、適 切な対応ができるように併設特養の看護師との連携や勉強会 の開催を行いスキルアップに努めていきたい。また、再度、本人 及び家族に意向確認を行い終末期に備えていきたいと考えてい る。  (外部評価) 開設当初から勤務する職員が多く、利用者と家族のような関係 を築いており、最期までお世話をしたいという想いを持って看 取りに積極的に取り組もうとしている。入居時に本人と家族に 事業所が対応可能な事柄について説明し、意向を確認してい る。往診可能な医師の確保ができていないため、終末期には早 期に異常を発見して受診し、かかりつけ医と相談しながら支援 している。	地域の医療体制に限界があり、医療的判断等現場職員 に求められ事柄は多いと推測される。研修会や併設事 業所での看取りの体験交流等を継続して、笑顔を支え てきた利用者の看取りが実現できるよう準備するこ とを期待したい。また、信頼できる医師との24時間医 療体制が整備されることに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 今年度は応急手当や初期対応については勉強会行っていない。今年度、内部学習会や定期的に消防の救急救命講習等に参加して実践力維持に努めたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的にさまざまな想定の実践を実施し職員個々のスキルアップをめざしたい。隣接特養とともに地域との協力体制を築いている。今年度はじめて地域の防災訓練に参加させていただいた。今後も定期的に参加させていただき協力体制の関係強化に努めていきたいと考えている。  (外部評価) 年2回日中と夜間想定で避難訓練を実施している。内1回は消防署立ち会いのもと併設施設と合同で実施し、指導や助言を得ている。事業所は自治会と防災協定を結んでおり、福祉避難所として活用される予定になっている。また、職員が地域防災訓練に参加して、地域との協力関係を築いていっている。事業所2階に災害時備蓄品を整備し定期的に交換している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室時や排泄誘導時、入浴支援時などプライバシーを損ねないような言葉かけには常に意識しているが、今後も個々を尊重していくように努めていきたいと考えている。  (外部評価) 入居時に表札の表示や電話の取次ぎ、写真の扱いについて相談して、利用者のプライバシーに配慮している。職員は自分に置き換え、家族に置き換えて考えるようにして、利用者の尊厳や人格を損なうことがないように努めている。また、言葉遣いに留意し、声かけをていねいに行うよう配慮している。また、利用者の意向を大切に同性介護を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の様々な場面で自己決定・選択の機会を提供するように努めている。また、本人の思いを容易に言葉に出せるような信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースに合わせ生活がおくれるように努めているが、職員側の都合に合わせてしまう事がないように、今後も常に意識していきたいと考えている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服は、毎日同じものにならないようにさりげなく支援をしている。利用者や家族の意向により散髪やパーマはなじみの美容室等へ行けるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者とともに食事の準備から片付けまで実施している。利用者それぞれができることを無理なく実施できるように配慮し支援するように今後も努めていきたい。	
			(外部評価) 献立は利用者の希望を聞いて職員が交代で立て、毎日食材の買い物をしている。隣家から無償で借りている畑で利用者と一緒に野菜を栽培し、食材として使用することもある。利用者は野菜の下ごしらえ等、手伝えることを一緒に行い、職員も一緒に食卓を囲んでいる。糖尿病の治療をしている利用者が複数名おり、カロリー計算をして食事療法を行った結果、検査結果が好転し利用者のみでなく職員の励みにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスや糖尿病の方の事も考え献立を立案している。また、1日トータルの水分摂取量の目標量を定め必要量が確保できるように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、すべての利用者に口腔ケアの言葉かけを行うとともに支援が必要な利用者には状態に応じて介助を行っている。また、歯科医師に往診を依頼し医師や歯科衛生士による専門的な知見から口腔内の状態確認や口腔ケア実施・助言を頂き口腔内の清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) すべての利用者がトイレで排泄できるように支援するとともに、利用者ごとの排泄状態を毎日記録にとり、排泄パターンの把握及び排泄兆候を観察し失禁しないようにトイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットにトイレが4か所設置されており、利用者が使用しやすいように配慮されている。日中はほとんど布パンツとパットで過ごす利用者が多い。職員は、排泄チェック表を確認し、表情や行動から判断しながら誘導して排泄の自立を念頭に支援している。別室に陰部清拭用品が保温保管されており、排泄の都度清潔が保てるよう配慮している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 主治医の処方にて緩下剤を使用している方もいるが、なるべく自然排便ができるように、必要水分量の確保、食物繊維摂取の促進及び適度な運動を支援して便秘傾向を回避するよう取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 個々の希望に合わせた入浴にこころがけている。時間帯についても入居者に尋ね、その人が入りたい時間になるべく入浴できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 週2～3回を基本として、移動式和式浴槽で一人ずつ入浴している。その日の様子や利用者の状態によって時間や回数を柔軟に対応しており、夕方入浴する利用者もいる。車いすレベルの利用者はシャワーチェアや移乗台を活用して安全に入浴できるよう配慮されている。立位がとれない利用者は併設施設の機械浴槽に入浴することもできる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 利用者の居場所については、特に決めておらず個々の状況に合わせた対応に努めている。日中についても居室で休息したい方は自由に休めるように配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用についての情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、処方薬が変更になった場合は必ず申し送り、状態の変化の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた楽しみがもてるように生活の中で役割を持てるように努めている。支援者側の都合で役割をもたせる事がないように努めていきたいと考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望や状況に応じて外出できるように取り組んでいる。今後も個別や共同で外出できる機会を増やしていきたいと考えている。  (外部評価) 毎月外食の日を設けているほか、その日の利用者や職員の状態に応じて花や海を見に出かけたり、温泉や時には県外の動物園に出かけている。「笑顔百景」には、その時の笑顔の写真が多く掲示されている。事業所は住宅地の外れにあり、敷地の周辺が良い散歩コースになっている。毎日の買い物に職員と一緒に出かける利用者もあり、なるべく日常的に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向がある場合は、家族に依頼し所持できるように依頼している。外出時、買い物等で使える機会を増やしていきたいと考えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の電話希望時には、職員が間に入り円滑に会話ができるように支援している。事前に家族の方などに状態などの連絡をし、確認を取るなどの配慮も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なるべく家庭生活と同じような環境になるようにこころがけ季節の花を飾ったりしながら工夫している。また、共用の空間でも個々に合わせてその都度混乱を軽減できるよう物品の配置を工夫している。	
			(外部評価) 利用者は自由に過ごせ、職員は見守りをしやすいよう設計されている。ソファコーナーとダイニングコーナーがあり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。また、車いすを使用する利用者が移動しやすいよう、状況に応じて家具の移動をしている。廊下の壁面には似顔絵ボランティアが描いた作品や、利用者が書いた絵手紙が飾られていて和やかな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間等の共有空間では、利用者ごとに居場所の認識が固定されているが、特定はされておらず、その日の状況に応じておもいおもいに過ごせるような居場所になるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスや布団などは今まで使い慣れた物を持参していただいている。居室空間は個々が安らげる場所になるように今後も工夫していきたいと考えている。	
			(外部評価) エアコンと洗面所が設置されているほか、家具はベッドのみ備え付けられ、タンスや椅子、カーペット、ハンガースタンド、寝具など使い慣れたものを持ち込んでいる。太鼓台のポスターや赤ちゃん大の人形、動物のぬいぐるみを飾り、個性的な部屋になっている。また、自室に居たい時には内鍵をかけることもでき、職員は部屋の外からそっと見守りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の方がなるべく安全に生活でき、家庭と同じような環境になるようにこころがけている。今後も生活物品の配置に配慮し生活動作を誘発するような工夫を行い自立生活を支援していきたいと考えている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500220
法人名	社会福祉法人ふたば会
事業所名	グループホームふたばの森
所在地	新居浜市船木3001番地3
自己評価作成日	平成28年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 6 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふたばの森は、南を眺めば、すぐ近くに昔のままの自然、北側には住宅地、学校、スーパーと「生活」する上では、とても恵まれた場所にあります。いろんな世代のスタッフと利用者とともに「楽しく笑顔のある暮らし」をおくれるようにと支援しています。日々健康管理に留意し、栄養バランスに配慮した食事、水分補給、日常的な活動をさりげなく支援しています。そのためか事業開始から発熱される方もほとんどなくみなさんお元気に生活されています。事業所内で「生活」が完結することのないように積極的に外出するように取り組んでいます。また、最近ではさまざまな問い合わせや相談が多く、地域にGHふたばの存在が認められた様子です。事業所内のご利用者だけでなく認知症高齢者を支える一つの拠点として地域に貢献していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地の外れに立つ地域密着型高齢者複合施設の一角に建っており、高齢化が進む地区住民の期待を受け、地域に信頼され貢献できる事業所を目指している。職員は「利用者とともに、楽しく笑顔のある暮らし」を理念に掲げ、利用者のありのままを受け入れて笑顔を引き出すケアに努めている。スタッフフルームには利用者の笑顔写真が100枚掲示されていて圧巻である。開設当初から勤務する職員が多く、利用者と家族のような関係を築いており最期までお世話をしたという想いを持って、看取りにも積極的に取り組もうとしている。また、利用者に手作りの食事を楽しんでもらいたいと考え、毎日買い物をして各ユニットで調理をしている。充実した研修体制のもと、職員が熱意を持ってサービス向上に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームふたばの森

(ユニット名) 2階(くるみ)

記入者(管理者)

氏名 高橋 俊道

評価完了日

平成28年5月31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業開始時に職員全員でケアのあり方、実践すべきことを話し合い自分たちの言葉で事業理念、行動指針を作成した。事業所内に意識づけのために掲示し、一日一日の振り返りを行えるように職員全員が自己点検表を記入し実践できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 法人理念を受け、開設時に職員が話し合っで作成した事業所独自の理念を大切に継続している。自分たちの言葉で実践しやすいようにと考え「利用者とともに、楽しく笑顔のある暮らし」という理念と具体化するための行動指針をスタッフルームやリビングに掲示すると共に、毎日確認して意識づけをしている。スタッフルームには100枚の笑顔写真が「笑顔百景」と題して飾られており、職員の励みともなっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の店舗へ利用者とともに買い物に行ったり、地域行事及び環境整備等にも参加させて頂いている。今後は運営推進会議などから地域のニーズや事業所側の役割を見出しもっと交流が拡大できるように努めていきたい。</p> <p>(外部評価) 日常的に近所の公園に散歩に出かけたり、スーパーに買い物に行き、近所の人と顔見知りの関係になっている。近所の好意で借りている畑を耕し、収穫した野菜をお裾分けする間柄である。また、利用者は地区の夏祭りに参加したり、併設事業所に来る太鼓台を楽しみにしている。小中学生の職場体験の受け入れや、保育園に招かれ、園児との交流がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 利用相談時や見学依頼時には、なるべく来客者の都合に合わせてとともに、時間をかけてさまざまな相談や社会資源の活用及び具体的な支援方法についての相談対応に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 活動報告には利用状況や事故防止の取組、行事については映写スライドを活用し内容や日頃の利用者の生活や表情を報告している。情報交換はできているが、さらに参加者が話しやすく率直な意見交換ができたり、地域ニーズや事業所機能の役割を相互の確認できる会議にしていきたい。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、自治会長や民生委員、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、事業所の取組みをスライドを使って報告したり、利用者の状況やヒヤリハット・事故報告を行っている。意見交換では、地域の情報を得たり、避難訓練参加のお願い等をしている。開催時間が30分に限られており、管理者はもっとゆっくり意見交換ができる工夫をしたいと考えている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 業務等で市役所へ行くときは、必ず担当者との意見交換に努め、法制度の動向や条例変更等の情報交換、サービス提供における助言等を頂いている。また、市介護支援専門員部会では、年1回保険者との意見交換会があり、毎年必ず参加に努めている。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を把握してもらっている。管理者は頻りに市役所を訪れ、気軽に相談や連絡が取れる関係を構築している。市介護支援専門員部会に出席して情報を共有したり、地域包括支援センターからの要請を受けて、地区の集会所で講演を行うなど、関係が深まっている。また、介護相談員が定期的に訪れ、第三者として気付いたことを助言してくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日常的に職員同士で話し合い「身体拘束をしないケアについての実践」について確認し合うように努めている。当然、玄関の常時開錠を含め身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止のため、今後も定期的に勉強会を開き、意識が劣化しないように取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 利用者が自由な暮らしができるよう、拘束をしないケアを徹底している。建物はどこからでも自由に出入りができる構造になっており、利用者は自由に戸外に出ることができる。夜間外でトイレ用を足すことのないよう戸外に出る利用者には、携帯用感知装置等の活用により察知しトイレ誘導を行っている。門扉とユニット出入りにセンサーを設置し、職員は15分毎に利用者の状況を把握して安全に留意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に外部研修への参加や内部研修を開催し、学ぶ機会をもうけ、虐待はもとより「不適切なケア」についての理解を深め発生防止に取り組んでいきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度を活用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、円滑に制度活用ができるようにシステム作りを行っていきたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 左記の状況時には、時間をかけて重要箇所を十分説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い理解・納得していただくように配慮している。確認や申し出がない利用者や家族にはよくいただく質問等を事業所側から提案・説明し理解・納得をはかっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、要望等は面会時などの来所時や電話連絡時に個別に確認するように努めている。今後、家族参加の行事及び家族会等を開催し気軽に意見交換ができる場を確保していきたいと考えている。  (外部評価) 家族面会時には挨拶や声かけをして状況を伝え、家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。来訪が難しい家族には、電話で状況を伝えて要望を聞いたり、毎月郵送する手紙に一言を添えるようにして家族との関係づくりに努めている。今ではメールやファクスでやり取りする家族も増えてきている。また、そうめん流しには家族が多く参加しており、今後も家族が参加しやすい行事を計画する予定である。	管理者は家族会の開催を検討しており、アンケートによる家族の意向調査を計画していたが、まだ実施に至っていない。調査を実施し、結果を協議して深めながら、職員と家族が協働して利用者の支援ができる関係が構築できることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会、リーダー会及び職員会を定期的で開催し、その中で提案された意見を可能な限り運用に反映できるように努めている。  (外部評価) 様々な年齢の職員が在籍し、日常的に意見や提案を出し合いながらチームケアに努めている。定期的にユニット会や職員会が開催され、職員はケアについての意見や運営に関する要望を出すことができる。管理者は、年1回の個人面談でストレスチェックを行い、職員の心理的サポートに努めている。職員研修は計画的に実施されており、研修環境を整えて個人の意欲向上を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は月に1回は事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にし、やりがいや働きやすい職場づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。○J Tの取組についても今後の課題と考案システムづくりに取り組んでいきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種研修会や市介護支援専門員部会等で同業者との交流（相互評価事業）や勉強の機会をいただいている。今後、機会をみつけ他施設・他事業所との交流も検討していきたいと考えている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に可能なかぎり複数職員で訪問し、本人の困っていること、不安なこと、要望等の確認を行っている。本人さんをよく理解することに努め、グループホーム入居という環境変化からくるダメージを少しでも軽減できるように職員の配慮事項や居室等環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なこと、要望を確認している。また、入居前に事業所へ事前見学にこられた際にも上記のような確認を行い円滑に入居できるような支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に「今一番困っていること」を確認するようにしている。事業所として対応可能なことについては遅滞なく対応を行い、対応困難な場合については他事業所等の活用情報の提供や紹介調整を行っている。今後も初期対応の支援が円滑にできるように情報収集とネットワークづくりに努めていきたいと考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりの「できる」こと、能力に応じた家事作業を一緒に実施することで、共に暮らすもの同士という関係に近づこうと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけでなく、ご家族にも行事、受診等、できるだけ協力して頂き、ともに本人を支えることができるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事や祭りへの参加など、これまでの生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。入居前に普通のお店等への外出支援も行い馴染みの関係の継続支援に努めている。  (外部評価) 入居時に本人や家族から情報を収集、その後は日常会話の中から馴染みの人や場所の情報を聞いて共有している。自宅を見たい、馴染みの散髪屋に行きたいという個別の希望には、家族の協力も得ながら実現できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者ごとの性格、その場面、場面の感情などの変化を観察、理解し、利用者同士が良好な関わりを持てるようにさりげない支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居した場合であっても気軽に連絡・相談ができるような関係構築に努めていきたいと考えている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人に希望や要望を尋ね実現できるよう職員間で話し合い計画を行っているが、すべてを実現するのは困難である。少しずつ実現に向けてとりくんでいきたいと考えている。 (外部評価) 職員は、利用者の希望や思いを聴き取り、叶えてあげたいと考えており、入居時に家族から利用者が喜ぶことは何かたずねている。また、努めて話しかけ、笑顔になることを見つけるようにしている。表現が困難な利用者は表情から推察するようにしているが、職員は感覚的に把握できるようになったと感じている。新しくなった墓を見たいという利用者につき添って車いすでお参りしたり、県外の動物園に行くなど、思いの実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴などを確認し把握するように努めている。また、本人や家族との日々の会話の中から今までの生活状況、環境を聞き取れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりのその日の心身の状態を表情やバイタル、会話などから把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃の本人さんの発言、家族からの意見等について職員会やユニット会などで、さまざまな意見を出しあい介護計画に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者と家族の意向を確認し職員が話し合っ介護計画を作成している。生活健康管理日誌を見ると1週間の利用者の状況が一目で把握できるように工夫されており、管理者とユニットリーダーが毎週モニタリングを行っている。状態の変化がある場合はその都度、ない場合も半年から1年ごとに、現状にあったものになっているか見直している。可能な範囲で利用者と家族にも参加してもらって介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の経過記録、生活状況について記録し把握するように努めている。1週間ごとに評価し変化徴候に対して早期に発見、対応できるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活を支えるということは、支援の枠組みを広げることと考えている。柔軟な支援や多機能化のためには事業所のみならず、運用についての協力者の発掘に努めていきたいと考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個別に活用可能な地域資源を把握し本人が主体的に活用できるように支援して行きたいと考えている。地域の方が畑(土地)を貸してくださり、利用者とともに野菜作りを楽しむ支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人の病状をよく把握している入居前のかかりつけ医への受診を家 族の協力のもと継続的に支援している。また、かかりつけ医からの 情報交換から医療的観察事項や介護上の注意点等の助言をいただい ている。</p> <p>(外部評価) 入居前のかかりつけ医を継続して受診しており、職員が付き添って 受診することが多い。週に2～3回併設施設の看護師が定期的に訪 れ、健康管理や職員の相談を行っている。看護師は24時間オン コール体制をとっており、利用者のかかりつけ医と連携して適正医 療につなげている。精神科医の訪問診療があり、利用者に喜ばれて いる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 隣接の特別養護老人ホームから週3回程度、看護職員に来所して頂 き、利用者の健康状態の報告、相談、助言を頂き利用者ごとに適切 な受診や看護を受けられよう支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	<p>(自己評価) 利用者が入院した場合は、文書にてGHでの生活の状況や入院まで の経緯、入院時の配慮事項等を報告している。また、早期に退院で きるように主治医や病棟看護責任者と定期的に情報交換を行ってい る。必要に応じてMSWとの情報交換を行い医療機関との関係構築 に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 今回、終末期ケアの実践を行った機会があった。本人の状態及び家 族意向と事業所特性とを照らし合わせての手探りのなかでの実践で あったが、実践内容の反省や関係者の意見交換のなかから本人、家 族、職員、地域支援者が連携をとり、それぞれが安心して終末期を 迎えるような体制づくりを行っていきたい。</p> <p>(外部評価) 開設当初から勤務する職員が多く、利用者と家族のような関係を築 いており、最期までお世話をしたいという想いを持って看取りに積 極的に取り組もうとしている。入居時に本人と家族に事業所が対応 可能な事柄について説明し、意向を確認している。往診可能な医師 の確保ができていないため、終末期には早期に異常を発見して受診 し、かかりつけ医と相談しながら支援している。</p>	地域の医療体制に限界があり、医療的判断等現場職員 に求められ事柄は多いと推測される。研修会や併設事 業所での看取りの体験交流等を継続して、笑顔を支え てきた利用者の看取りが実現できるよう準備するこ とを期待したい。また、信頼できる医師との24時間 医療体制が整備されることに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<b>(自己評価)</b> 今年度は応急手当や初期対応については勉強会行っていない。今度、内部学習会や定期的に消防の救急救命講習等に参加して実践力維持に努めたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<b>(自己評価)</b> 定期的にさまざまな想定の実施し職員個々のスキルアップをめざしたい。隣接特養とともに地域との協力体制を築いている。今年度はじめて地域の防災訓練に参加させていただいた。今後も定期的に参加させていただき協力体制の関係強化に努めていきたいと考えている。 <b>(外部評価)</b> 年2回日中と夜間想定で避難訓練を実施している。内1回は消防署立ち会いのもと併設施設と合同で実施し、指導や助言を得ている。事業所は自治会と防災協定を結んでおり、福祉避難所として活用される予定になっている。また、職員が地域防災訓練に参加して、地域との協力関係を築いていっている。事業所2階に災害時備蓄品を整備し定期的に交換している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<b>(自己評価)</b> 訪室時や排泄誘導時、入浴支援時など誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけには常に意識しているが、今後も個々を尊重していくように努めていきたいと考えている。 <b>(外部評価)</b> 入居時に表札の表示や電話の取次ぎ、写真の扱いについて相談して、利用者のプライバシーに配慮している。職員は自分に置き換え、家族に置き換えて考えるようにして、利用者の尊厳や人格を損なうことがないように努めている。また、言葉遣いに留意し、声かけをていねいに行うよう配慮している。また、利用者の意向を大切に同性介護を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<b>(自己評価)</b> 利用者ごとの行きたい所、したい事など、日々の会話の中で聞きとりを行っているが、なかなか実現することが難しい。1つずつ確認し計画し実行して行けるように取り組んで行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその日の状態を観察し、外出、買い物などの気分転換の機会を設けている。一人ひとりのペースを崩さない様に職員間でこころがけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性の入居者はお化粧されるなど、その人らしいおしゃれを楽しめるように努めている。また、家族の協力を得て本人が希望する美容院へ行けるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を作る場所から、利用者とともに準備を行い参加参加されている。後片付けも積極的に参加できるような雰囲気づくりに配慮している。メニューは利用者からの「食べたいもの」を取り入れるように配慮している。	
			(外部評価) 献立は利用者の希望を聞いて職員が交代で立て、毎日食材の買い物をしている。隣家から無償で借りている畑で利用者と一緒に野菜を栽培し、食材として使用することもある。利用者は野菜の下ごしらえ等、手伝えることを一緒に行い、職員も一緒に食卓を囲んでいる。糖尿病の治療をしている利用者が複数名おり、カロリー計算をして食事療法を行った結果、検査結果が好転し利用者のみでなく職員の励みにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取カロリーや栄養バランスを考えた献立を作成するように努めている。摂取量も一人ひとりの摂取量の把握に努め、量をさりげなく調整している。水分補給はあきがないようにさまざまな飲み物を用意し選択していただき、こまめに摂取してもらえるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、すべての利用者に口腔ケアの言葉かけを行うとともに支援が必要な利用者には状態に応じて介助を行っている。また、歯科医師に往診を依頼し医師や歯科衛生士による専門的な知見から口腔内の状態確認や口腔ケア実施・助言を頂き口腔内の清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) トイレでの排泄が行えるように支援している。オムツ使用者に対しても、日中は紙パンツ等を使用し排泄記録表や排泄徴候の観察から誘導を行いトイレでの排泄を支援している。</p> <p>(外部評価) 各ユニットにトイレが4か所設置されており、利用者が使用しやすいように配慮されている。日中はほとんど布パンツとパットで過ごす利用者が多い。職員は、排泄チェック表を確認し、表情や行動から判断しながら誘導して排泄の自立を念頭に支援している。別室に陰部清拭用品が保温保管されており、排泄の都度清潔が保てるよう配慮している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 主治医から緩下剤を処方されている場合もあるが、必要十分な水分摂取量の確保とヨーグルト、バナナジュース、寒天ゼリーなどを利用者の好みに応じて準備・提供して排便を促している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の入りたい時間に入浴ができるように工夫している。要望のない利用者に対しては、こちらから言葉かけを行い働きかけている。</p> <p>(外部評価) 週2～3回を基本として、移動式和式浴槽で一人ずつ入浴している。その日の様子や利用者の状態によって時間や回数を柔軟に対応しており、夕方入浴する利用者もいる。車いすレベルの利用者はシャワーチェアや移乗台を活用して安全に入浴できるよう配慮されている。立位がとれない利用者は併設施設の機械浴槽に入浴することもできる。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 夜間眠れていない方へは、短時間の昼寝を促し身体や気分を休めるように配慮している。起床や入眠について本人の希望に合わせた対応を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用についての情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、処方薬が変更になった場合は必ず申し送り、状態の変化の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 外出、食事の準備、散歩など日々の中でそれぞれできる事をしたいたしに行ってもらえるように言葉かけを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせた外出支援を心掛けているが、職員の勤務状況により出来ていない時もある。全体での外出行事は月に1度は取り入れているが、今後は個々の希望に対応できるように工夫していきたいと考えている。	
			(外部評価) 毎月外食の日を設けているほか、その日の利用者や職員の状態に応じて花や海を見に出かけたり、温泉や時には県外の動物園に出かけている。「笑顔百景」には、その時の笑顔の写真が多く掲示されている。事業所は住宅地の外れにあり、敷地の周辺が良い散歩コースになっている。毎日の買い物に職員と一緒に出かける利用者もあり、なるべく日常的に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向がある場合は、家族に依頼し所持できるように依頼している。外出時、買い物等で使える機会を増やしていけるように支援していきたいと考えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から電話をしたいとの要望があれば、直接家族へ通話ができるように支援したり、本人の意向を職員が伝えたりとの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花や馴染みの祭りのポスターなどを飾り会話のキッカケ作りに使用している。記録物などの利用者の生活に関係ないものは、利用者の目の届かないところに保管し生活の場としての雰囲気を壊さないように配慮している。</p> <p>(外部評価) 利用者は自由に過ごせ、職員は見守りをしやすいよう設計されている。ソファコーナーとダイニングコーナーがあり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。また、車いすを使用する利用者が移動しやすいよう、状況に応じて家具の移動をしている。廊下の壁面には似顔絵ボランティアが描いた作品や、利用者が書いた絵手紙が飾られていて和やかな雰囲気である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 事業所内の空間ごとに椅子を複数設置して一人ひとりが自由に過ごせるような環境づくりに配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に持参品の参考リストを渡し、使い慣れたものを持参するように依頼している。馴染みのタンスや布団、仏壇などを持ち込んでもらい、少しでも安心して安らぐことのできる空間づくりをこころがけている。</p> <p>(外部評価) エアコンと洗面所が設置されているほか、家具はベッドのみ備え付けられ、タンスや椅子、カーペット、ハンガースタンド、寝具など使い慣れたものを持ち込んでいる。太鼓台のポスターや赤ちゃん大の人形、動物のぬいぐるみを飾り、個性的な部屋になっている。また、自室に居たい時には内鍵をかけることもでき、職員は部屋の外からそっと見守りをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの「できること」「わかること」を活かし引き出すために家具や生活物品の配置場所を配慮している。今後も定期的に見直しを行い、安全かつ自立した生活がおくれるように工夫していきたいと考えている。</p>	